

麗しき列車

56 スイス
「リビエラ・ベル・エポック」



スイスを走る ベル・エポック時代の 観光蒸気機関車

先月号に続いて今月号もスイスの名列車となったが、実はまとめて取材しているわけではなく、今年に入ってから4月、5月、6月と3カ月連続してのスイス取材となった。事実、スイスは鉄道王国で、鉄道にまつわるイベントも数多いのである。

5月に訪問したのはフランス語圏のモントルー・リビエラ地方。「プロネイ・シャンビー鉄道」開業50周年を記念して、「メガ・スチーム・

フェスティバル」が開催された。スチームとあるように、蒸気機関車のお祭りというわけだが、正直なところ、スイスに蒸気機関車はピンとこなかった。なぜなら、私が小学生の頃だから、もう50年以上も前のことだが、授業で「スイスは水力発電が発達して、鉄道の電化率は100%」と習ったからだ。なので、電車はあっても、メガがつくほど蒸気機関車があるとは思っていなかった。

ところがである。観光列車「リビエラ・ベル・エポック」の始発駅、ヴヴェイに降り立つと、今まさに、重連の蒸気機関車に牽引された5両編成のアンティーク列車が入線するところだった。先頭の3号機と、続く4号機は、いずれも1913年にスイス北部のヴィンタートゥールで製造されたアプト式機関車である。機関車に続く客車も同時代の製造で、まさに、ベル・エポック時代の名車ばかり。

10時41分、重連、つまり機関車2台なので、汽笛が2声奏でられると、観光列車「リビエラ・ベル・エポック」は、MVR（モントルー・ヴヴェイ・リビエラ）鉄道の起点であるヴヴェイ駅をスタートした。街中をしばらく進むと壁面に喜劇王チャ

線名	キロ程	行先		ミュゼン
		列車名		ベル・エポック
MVR 鉄道	0	Vevey	発	1041
		Gilamont	レ	
		Clies	レ	
		Hauteville	レ	
		Château d'Hauteville	レ	
		St-Légier-Gare	レ	
		St-Légier-Village	レ	
BC 鉄道	5.9	Blonay	着	1107
		Chantemerle	レ	1115
BC 鉄道	8.9	[Viaduc 橋]	レ	[127]
		Cornaux	レ	[132]
		Chamby	レ	1140
		Chaulin-Musée	着	1150

2018.5

ヴィアデック橋で5分間停車するのは、重連の機関車を切り離し、1両ずつヴィアデック橋を通過させるため。重量制限のある橋なのだ。なおシャンビーからミュゼン・ミュゼはスイッチバックする格好でバック運転となる

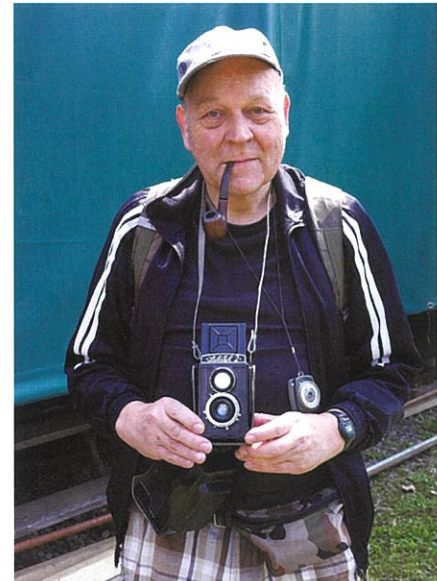


4号蒸気機関車を先頭に威風堂々とヴィアデック橋を渡る「リビエラ・ベル・エポック」。始発駅のヴヴェイを発車した時点では、先頭の蒸気機関車は3号機、4号機の重連(2両)だったが、いつの間にか3号機の姿はない。その理由はヴィアデック橋にあり。重量制限がありヘビー級の蒸気機関車の場合は、単機で通過しなければいけないのだそう。3号機は先に橋を渡り、その先で4号機と客車の到着を待っているのである。■オリンパス OM-D E-M1 Mark II・12~100³、F4・絞りf8・ISO800・AE-0.7補正・JPEGスーパーファイン

図版制作・板谷成雄 取材協力:スイス政府観光局、スイストラベルシステム



終点のシュロン・ミュゼ(博物館)に到着した3号蒸気機関車。これから機関車で給水、給炭、そして整備を受け、午後の「リビエラ・ベル・エポック」の先頭に立ってヴヴェイへと折り返していく。3号機の隣りの赤い車両は蒸気ロータリー除雪車。大雪の日に、このスノーマスターが力走する姿もぜひ拝みたいものである。なおシュロン・ミュゼにはかなりの数の名車両が保存されている。■オリンパス OM-D E-M1 Mark II・12~100³、F4・絞りf9・ISO800・AE-0.7補正・JPEGスーパーファイン

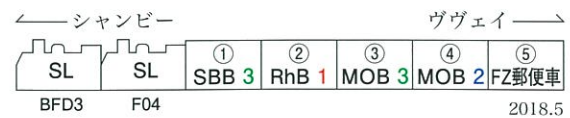


シュロン・ミュゼで出会った二眼レフのおじいさん。しかも首から年代物の露出計をぶら下げ、そのうえ、パイプスモーキング。私も鉄道写真のスタートは二眼レフのリコーフレックスだったことを懐かし思い出した

プリンの横顔が描かれたビルが現れた。ヴヴェイはチャプリンが88歳の生涯を終えるまで24年間暮らした地でもある。街中を抜けるとぶどう畑が広がり、その先にはレマン湖と白銀のアルプスが姿を見せる。けだし、絶景かな。

11時7分、坂道の途中のプロネイ駅で小休止。この先はいよいよBC(プロネイ・シャンビー)鉄道だ。蒸気機関車は1000分の50、つま

り1000分進む間に50以上昇する急勾配に挑む。山峡を力走すること30分、ついに終点のシャンビー駅に到着した。けれどもそこは終点ではなかった。列車はシャンビー駅でスイッチバックすると車庫のような場所まで停車した。シュロン・ミュゼとある。鉄道博物館だ。何とそこには10台もの蒸気機関車が煙を上げていた。まさに、メガ・スチーム・フェスティバル!



2018.5